

令和元年度（2019年度）事業計画書

公益社団法人 劇場演出空間技術協会

2019年度の事業活動は、昨2018（平成30）年度に新たに選任した役員による組織体制にて事業活動を定着させる年度となる。急激な国際社会の変動を確実に捉え、新しい潮流を敏速に取得し本会の公益事業に反映する。

不特定多数の国民のために、定款第4条に掲げる公益社団法人としての事業活動を余すところなく実行する。本会の会員が、JATETの存在意義と会員である事を実感し、誇負できる公益活動を活発に行うとともに、本会の活動を積極的に全国に向けて訴求する体制を強化する。

2019年度に実施する具体的な事業計画は次の通りとする。

1. 会議

1) 総会

2019年5月29日（水）ホテルローズガーデン新宿に於いて開催予定。

協会の最高機関として、定款第52条（事業報告及び収支決算）に則り2018（平成30）年度事業報告、収支決算報告に関する承認決議を行う。また、第51条（事業計画及び収支予算）に則り2019年度事業計画、収支予算書の報告を行う。

2) 理事会

定例理事会を年4回開催し、協会運営に関する重要事項を審議し、業務の執行を決議する。

2. 委員会

1) 事業執行連絡委員会

定款第58条（委員会）に則り、理事会の諮問機関として、執行理事及び部会長で構成される事業執行連絡委員会を毎月1回、年12回開催する。年間事業計画に基づき理事会で承認した事業を執行し、理事会と部会の緊密な連絡を諮る。

3. JATET部会計画

2019度における所属各部会の主たる事業計画は次の通りである。

1) 教育研修部会

劇場、文化施設の繁栄に努め、公益社団法人として社会貢献できるように取り組む。

[事業計画]

(1) 部会を原則月1回開催し、新設、改修された劇場、施設の情報収集する。

(2) 新設、改修された劇場、施設に対し、施設見学会を年3回を目標に開催する。

見学会を開催することで、施設建設の工夫など、みどころを建設に関わった方たちから聞き、施設の関心を高めるとともにこれからの施設建設の向上に貢献します。

〈見学会候補施設〉

札幌文化芸術劇場（昨年度より持越し）

2018年10月、大通公園にほど近い札幌市の中心部に開館した劇場です。「札幌市文化芸術交流センター」と「札幌文化芸術劇場」が併設する札幌市民交流プラザの中にあります。客席は3層バルコニー構造の2300席の劇場です。オペラ・バレエなどの舞台芸術に対応できる北海道初の多面舞台を備え、幅広い演出を実現できます。また、音響反射板を使用した各種コンサートに加え、大規模な会議や式典など、さまざまなジャンルの催しが可能です。

昨年度、震災により延期となった施設を今年度実施します。

日本青年館ホール

1979年に改築した日本青年館を解体、敷地を明治神宮野球場前に移し、2017年にグランドオープンした劇場です。地上16階、地下2階建ての日本青年館ホテルに併設しています。1250席でコンサート、講演会などに使用される多目的ホールです。

高崎芸術劇場

1961年に建設された群馬音楽センターの歴史と精神を継承・進化させ、新しい高崎の都市文化を創造・発信する劇場として、2019年9月にJR高崎駅東口に開館します。古今東西のさまざまな音楽や舞台芸術の公演に対応した2030席の大劇場、ロックコンサートや演劇・舞踊・能などの多様なパフォーマンスが可能なスタジオシアター。群馬県初の413席の本格的音楽専用ホール。リハーサルやレッスンのための9つのスタジオなど「鑑賞と創造」が一体化した複合的な芸術劇場です。

(3) 見学会が開催された劇場・施設をJATETジャーナルで紹介し、最新の劇場技術、リニューアルの実例等を全国に無料にて提供する。

(4) 見学会の開催が難しい遠方の施設をJATETジャーナルで紹介する。

〈見学会候補施設〉

観音寺市民会館、阿久根市民交流センター、越後妻有文化ホール・十日町中央公民館「段十ろう」

(5) 前年度同様、スタジオ、仮設劇場、制作場など劇場施設以外の新たな見学先を模索する。建築・設備の見学だけでなく、一般には公開されない施設を見学することで、設計事務所やゼネコンの方たちの新たな設計、施工への発想を促し、新しい劇場、演出空間の建設に役立てる。

2) 建築部会

部会を原則月1回開催し、次に掲げる調査研究を実施する。

(1) 劇場・ホールにおける可変（昨年度から継続）

平成30年度に実施した「劇場・ホールの可変」は、可変の中でも多目的ホールに備わる音響反射板に関する調査研究を実施した。そしてその成果をJATETフォーラム2018/19において発表した。

平成31年度はプロセニウム周辺の可変等、他の可変種別にテーマを移し調査研究を続ける。

(2) 客席のリ・デザイン

昨今、改修を実施する劇場・ホールが多くなっているが、その中で客席空間の改修を実施した事例を調査する。単に客席椅子を更新したといった事例ではなく、客席空間ボリュームや客席構成の変更、客席空間意匠の変更等の事例を中心に実施する。

(3) 劇場・ホールの系譜

わが国における劇場・ホールの系譜は平成21年度を中心に建築部会でとりまとめを行ったが、それに対する継続調査として、前回調査以後についてもデータを補充する。

また、前回の調査研究では実施していない、演劇劇場の系譜について新たに作成する。

3) 機構部会

部会を原則として月1回開催し、以下の活動を行う（3月、8月を除く）。

(1) JATET 技術展 2019

JATET 技術展 2019 において機構分野を担当する。

(2) 安全手帳の機構分野を担当する。

(3) ワイヤロープの劣化に関する調査・研究を行う。

(4) 指針、ガイドライン等の解説を JATET 誌、JATET ジャーナル等に掲載するとともにホームページ上で公開する。

(5) JATET の事業において機構分野の分担・協力をする

4) 照明部会

部会を隔月開催すると共に、下記の調査研究会を必要に応じて随時開催し、主として次に掲げる項目をはじめ、懸案課題の具体的な解決を図る。

(1) JATET 安全手帳作成に関して、照明部会として演出照明設備に関する安全注意事項を取りまとめる。

- (2) JATET 誌の発行に関して、照明部会としてテーマの設定及び編集に協力する。
- (3) JATET 技術展 2019 開催にあたって、照明部会としてセミナー等で参加、協力をする。

(4) 「照明用持込機器用電源盤の規格」化の検討

演出照明器材、機器の劇場・ホールへの持込み増加、多様化している状況で、現状の持込機器用電源盤の調査を行うとともに、「照明用持込機器用電源盤の規格」の具体的な設計基準の検討を行う。
特に持込機器用電源盤に関しては、他の部会との横断的な検討が必要と考える。

(調査研究会)

(1) LED 演出照明設備調査研究会

劇場演出空間における舞台照明設備は、従来の白熱灯光源を調光電源で制御する方式から、LED 光源を制御する新たな方式へ変化しており、照明設備の運用面や設計面の考え方も変化していくことが考えられる。舞台照明設備の電源系設計について、運用上の課題や将来性などから、今後の改修や新築における照明電源の考え方を主体に検討し、今年度も持込み機器用電源盤の調査を引き続き行い、今後の劇場・ホールの持込機器対応について検討を行う。

調査、研究の経過に応じて、施設、設備の見学会開催も検討する。

(2) 演出空間用 LED 照明器具表示規格研究会

明るさや、照射エリアについての考え方の統一とともに、フィールド角やビーム角などの特殊な用語について定義を行い、ユーザーが照明器具を選択するときの情報をわかりやすく統一できるように検討を進める。

5) 音響部会

部会を原則として隔月開催、作業部会を随時開催し、以下の活動を行う。

(調査研究テーマ)

音響設備に関する最新かつ有用な情報を幅広く収集し、JATET 規格として取り纏める。また、その内容を JATET 誌、JATET 技術展において発表する。

(1) 音響設備電源の 200V 化に向けた調査研究

電源供給の効率化および音響機器の高音質化のため、電力消費の大きいパワーアンプ等の電源電圧を 200V とする取り組みが進められている。電源電圧 200V 化に向け、安全に運用するための給電方法、コネクタ選定および音響機器側の対応について調査研究する。

(2) 劇場等演出空間用音響設備の劣化診断・適正更新時期判定プログラムに関する調査研究

劇場等演出空間施設の音響設備について、劣化診断を行うことで適正な更新時期を判定するためのプログラムに関する調査研究を実施する。

(3) デジタルオーディオネットワークの世界的な動向に関する調査研究

オーディオネットワークの最新動向の継続的な収集と今後のネットワークインフラのあり方について調査研究する。

(4) 舞台連絡設備指針改定に向けた調査研究

平成 7 年に JATET-S-5030「劇場・ホール舞台連絡設備指針」が発行され、その後、機器や信号伝送方法等の進歩がなされたが、規格の内容が現状に合わせ改定されていない状況である。今年度は実際の設置状況、運用状況および今後連絡設備に求められる事項等について、劇場・ホールを対象としたアンケート調査を行い現状分析する。

6) 映像部会

月 1 回の部会および研究会の開催を目標にし、関連情報の収集および会員への情報発信、相互連携に注力することを目標に映像部会研究会を開催するとともに、以下の研究テーマを中心に最新動向の研究調査を実施する。

(調査研究テーマ)

技術状況

2018年10月に開催された「CEATEC JAPAN 2018」では、「つながる社会、共創する未来」をテーマに、「日本の成長戦略や未来を世界に向けて発信するSociety5.0の展示会」として、IoT・ロボット・人工知能(AI)などのテクノロジーを活用した「未来社会」を目指した展示と議論が展開された。そして、11月に開催された「Inter BEE 2018」では、コンテンツを中心とした「つくる(制作)」「おくる(伝送)」「うける(体験)」の領域を網羅し、近未来のメディアコミュニケーションとエンターテインメントの世界を描き出していた。いずれも2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催を1年半後に控え、それに向けたデジタル技術の進化とともに、2020年以降のメディアの世界を見据えた取り組みが展開されていた。12月1日には、衛星放送(BS)による新4K・8K放送が開始された。高精細映像や22.2チャンネルのサラウンド音響によるコンテンツは、新しいリアリティをオーディエンスに届ける展開を始めている。“映像は「体験」になる。”が、新4K・8K放送のキャッチフレーズになっている。4K・8K高精細映像やマルチチャンネルによるサラウンド音響システムは、テレビ放送を変えるだけでなく、多様化するコンテンツを創りだし、そして劇場やホールなどの演出空間にも、今までとは違ったリアルな体験の場をもたらすことになる。

今年度の研究会テーマ

“技術の進化を捉え、劇場演出空間に新しいモデルを創出する。”

今年度は、「劇場間ネットワークとクラウドによる運営・制作・発信の可能性」を研究テーマとして、JATET技術展への取り組みを中心とした調査研究を行う。

(1)外部講師による研究会を開催。最新情報の取得および取り組むべき課題を議論、映像部会から広く情報発信を目指す。

外部講師(候補)

- ・パブリック・ビューイングや劇場間ネットワークに関心のある劇場担当者など
- ・NTTまたは産業総合研究所のネットワーク事業担当者または研究者など

7) 広報部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

(1) JATETとその活動についての情報発信を図る。

JATETの持つ多くの劇場演出空間についての情報や人的資源を、広く社会のために資するための広報活動を展開し、社会のニーズを調査し、JATETとその活動範囲の拡大と活性化を図る。

必要に応じてJATETリーフレットの改訂、英語版を作成、WEB上での公開を行う。

(2) JATET全体での事業について、広報分野を担当し協力する。

JATET主催行事の企画・運営に協力する。

4. JATET 技術展

第3回JATET技術展を開催する。

2019年8月30日、31日にセミナー、展示会ともに新国立劇場 中劇場を予定。

演出空間に関わる専門分野における最新技術の発表ならびに新技術を使用する際の注意点などに関するセミナーと劇場演出空間用機材の総合展示会を開催し、広く全国に普及させる事を目的とする。

5. 国際交流

定款第4条(事業)第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、OISTAT JAPAN及び韓国産業技術試験院(KTL)との交流、連携をより一層強化する。

6. 国内交流

定款第4条(事業)第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、劇場演出空間施設とこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する関連機関・団体等との交流を促進する。

7. 発刊物

1) 機関誌JATET

機関誌JATETを年2回程度発行し、JATETが創立以来行ってきた事業や研究成果を広く社会に訴求する。また、各部会で研究、調査している最新技術や最新情報を広く社会に紹介する。

2) JATETジャーナル

JATETジャーナルは教育研修部会が実施する劇場施設見学会と連動し、ホームページ上で電子媒体として本年度は3回程度発行し、最新の劇場演出空間及びリニューアルされた劇場演出空間を広く全国に紹介する。

3) JATETニュース

JATETニュースは、最新のJATET情報や関連団体の活動を速報として、毎月1回を基本に電子媒体として発行する。

4) JATETリーフレット

公益法人としてのJATETの設立意義とその活動について広く社会に周知し、より多くの会員を獲得するため広報部会が作成したリーフレットを普及させる。

8. JATETマークの改正と普及

JATETマークは、2016（平成28）年3月末で照明関係全社の契約が終了し、照明各社は現行のマークをそのまま使用している。他の技術系部会もJATETマークが採用可能か、今年度も引き続き検討を進める。公立の劇場ホールからは、舞台設備にJATETマークが取り付けがあれば、使用上の安心感が増加するという意見が寄せられている。照明以外の他の分野に応用が可能か否かを研究し、結果を公表する。

9. JATET安全手帳の作成と普及

演出空間全体として必ず必要となる設備、機材の取り扱いに関する安全注意事項をまとめたものがないため、舞台設備メーカー取り扱い説明書に記載の安全に関する注意事項を整理し、共通項目と各分野独自の注意事項をまとめたJATET安全手帳を作成することを目的とし、平成28年度から取り組みを継続している。昨年度までに照明部会（器具編）、音響部会が作成を完了し、そのほかの部会でも発行に向けて作業を進めている。今年度も引き続き安全手帳の作成に継続して取り組んでいく。

10. 舞台設備に使用する持込用仮設電源に関する調査研究

舞台機構、照明、音響などの設備機器用電源の電気方式は従来100V、200Vの供給には、電技解釈に規定された対地電圧150V以下の制限から、単相3線式や三相4線式が用いられており、舞台機構の電動機や一般動力電源として三相3線式での配電が用いられている。

昨今、施主、設計事務所、コンサルタント側から舞台持込設備用として三相3線式電源を要求される場合があり、その場合の設備の工事内容、使用対象機器、使用時の安全対策、電源盤上の表記など、三相3線式電源を取扱う場合の安全性に関する調査・検証も必要となる。

また、三相3線式に限らず、舞台設備としての仮設電源盤を検討することが必要との観点から、テーマを舞台設備に使用する持込用仮設電源に関する調査研究として、部会を横断した作業部会により調査を開始しているが、今年度も引き続き調査研究を継続する。

以上